

デジタル・デンティストリーの実践



有限会社 セラモテックシステム
代表取締役 森 亮太

現在私のラボではインプラント技工はジルコニアが大半で全てのインプラント技工はCAD/CAMを利用して製作している。

インプラント以外の自費補綴物もジルコニアがメタルボンドの数量を上回ってきた。

今現在、CAD/CAMを使用して製作される補綴物の精度も5年前と比べると、その進歩の速さと普及の進み具合には驚かされるものがある。

5年後、10年後の歯科技工を考えると、かなりのスピードでデジタル化が進んでいるのではないと思う。あつという間にブラウン管テレビが消え、液晶テレビに置き換わったように、もし口腔内スキャナが保健適用になったら、あつという間にワックスアップや鋳造を行うことが無くなっているのかもしれない。

また歯科技工士の減少が危惧され始めたのも6年前くらいであろうか。

この人手不足もデジタル化を急ぐ後押しになるであろう。

ここ2～3年歯科技工士学校の卒業予定者の10倍ほどの求人が来るそうである。

このため就職時には売り手市場で、自分にとって良い職場を選ぶことが出来るはずである。

しかし25歳未満の歯科技工士の離職率が79%に達している現状を踏まえると、自分に向けた職場に就職できていないのではないかと考える。就職前に色々な職場を見て回れるインターンシップのような制度が必須であろう。しかし、この人手不足を解消する担い手は若い歯科技工士に限ったことではなく中高年の歯科技工士もデジタルの技術を身につければ技工士人生の大幅な延長も可能と思われる。私自身老眼が進みワックスアップをするにも顕微鏡が必要になり作業が苦痛に感じられていた。しかしCADのコンピュータ画面上では、いくらでも拡大してみることができるので私の技工人生も10年は伸びるのではないかと思っている。

当社で行ったラボの職場環境の改善とデジタル化が一層進んだ5年後、10年後の歯科技工に対応できる設備と技術の一端を実技を交えて紹介したいと思う。